

祝福師の祝福についての質問に答える

ラッセル・M・ネルソン大管長は、次のように話しています。



「〔祝福師の祝福〕は貴いものです。皆さんにとっての個人的な聖文であり、皆さんの特別な血統を宣言します。過去とのつながりを思い起こさせ、自分の持つ将来の可能性に気づく助けとなります。文字どおり、皆さんは自分の忠実さによってそれらの祝福が成就するよう主に求めることができます。」 (Russell M. Nelson, “Thanks for the Covenant” [Brigham Young University devotional, Nov. 22, 1988], 5)

七十人の山下和彦長老は、次のように証しています。



「わたしは、度々、祈りの気持ちで祝福師の祝福を読み、その度に励ましを受けます。また、主が自分に期待しておられることに気づき、悔い改めて謙遜になる助けとなっています。祝福文を読み、それについて考えるときに、約束された祝福を受けるのにふさわしい生活をしたいという望みが湧きます。……

……天の御父と、御父の愛する独り子、主イエス・キリストは生きておられます。御二方はわたしたちを愛しておられます。祝福師の祝福は、御二方からの神聖な贈り物です。

祝福師の祝福を受けるとき、皆さんは御二方がどれほど自分を愛し、心にかけてくださっているかに気づくでしょう。」 (山下和彦「祝福師の祝福は、いつ受けるべきか」『リアホナ』2023年5月号, 89–90)

元中央若い女性会長のボニー・H・コードン姉妹は、次のように話しています。



「あるFSYカンファレンスで、悩みを抱えた二人の若い女性に出会いました。どちらの若い女性も、主の愛と個人的な導きを再び見いだすために、祝福師の祝福に心を向けたと話してくれました。皆さんも自分の祝福文を探し、必要であればほこりを払い、頻繁に研究してください。まだ祝福師の祝福を受けていなければ、すぐに受けましょう。皆さんが何者であるかについて主が今何を伝えたいと思っておられるか、知るのを引き延ばさないでください。」 (ボニー・H・コードン「キリストのもとに行きましょう。しかし自分一人だけで行かないでください」『リアホナ』2021年11月号, 10–11参照)